【 歴代会長祝辞 】

## これからの連絡協議会に願うこと

第 2 代会長
田中 守

創立 30 年記念、創立者の一人としてここまで持続発展させて頂いた後輩諸氏に深く感謝致します。

初代会長西岡先生の下で総務を 7 年間、2 代目会長を 6 年間務めさせて頂いた。

西岡先生みたいに学位を持ち博識で素晴らしい人格者に比し、あらゆる面で見劣る私は果たして会長職が務まるか苦慮した。そこで考えたのが、関東地区にある歯科大学、歯学部の技師長を集めて月 1 回幹事会を開き、みんなの知恵を借りる事であった。東京医科歯科大学の五十嵐先生にはその都度お世話になり、幹事会の後は飲み会で親睦を深めあった。

私の目標は、より少ない線量で診断能力の高い画像を提供する。歯科放射線技師の地位向上と社会に対する教宣活動であった。

・広島大学の砂屋敷先生にお願いして、技術学会で歯科放射線技師の専用コーナーを設けて貰ったが 3、4 年で発表演題がなくなり断念せざるを得なかった。

・歯科衛生士会、薬剤師会、看護師会などのように私立歯科大学協会に認められた組織にするために全国私立歯科大学診療放射線技師代表者会議を発足させた。
三島君の話でちゃんと活動しているとのことで安心した。

・4 代目の片木喜代治会長の推薦兼編集で編さんされた本「歯・顎顔面検査法（医療科学社、2002 年）」の出版は全会員の知能の成果であるが、ぼつぼつ改編の時期とも思われるのでそのあたりは片木喜代治さんにご相談ください。

・私の定年が近づいた頃、30 年記念大会で講演された小林 馨教授から歯放技連絡協議会の歴史を書かないかとの相談があり、「組織はその設立の目的と歴史が明確でないとその組織は永続しないよ」と言われ、時の片木会長了承のもと「歯科で働く放射線技師の歴史」を執筆した。今は会のホームページに掲載されているが、10 年以上の時代が経過し、私が見落とした点や誤記はないか、その後の歴史の加筆も必要と思われる。

・私は 2016 年 4 月に脳梗塞、頸椎狭窄症により左半身麻痺で車椅子生活であるが、幸い会話と頭は普通である。しかし自由に動けないのは不便なものである。

テレビと本とパソコンを友にしているが、つくづく感じるのは時代の流れの速さである。恐竜時代が約 1 億 9 千万年、ホモサピエンスとしての人間時代は 6～7 万年、哲学、宗教の布教は 2～3 千年位、今や 10 年から 20 年位前から AI（人工知能）時代と呼ばれ、20 年以内に人工知能やロボットによって人間の仕事は半分以下になってしまうだろうと言われている。歯科放射線の分野では比較的その影響は受けにくいと思われるが、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）MR（複合現実）等はゴーグルひとつで応用可能なようで、特に MR は顎の血管、神経系の観察が可能とか、画像診断も速く正確にできるようになるだろう。これからは患者さんが院内にいるうちに結果が分かる時代になる。